

④教育からのニーズをITで実現

2007年6月16日

東北大学大学院教育情報学研究部

爲川 雄二

■ 私の研究：ITを使った発達障害児者支援

- 主な対象：知的障害（精神薄弱）、軽度発達障害（学習障害、注意欠陥多動性障害など）
- 教育・福祉・情報工学の専門家らとの共同開発

- － インターネットのできる各種チェックリスト等（参考 <http://www.jasssdd.org/>）
- － 個別の指導計画（Individualized Education Program）の書式閲覧システム
- － 知的障害児向け電子メール擬似体験
- － パソコンのできる失語症者向け訓練ソフト & 軽度発達障害向け学習ソフト

■ 開発を可能にした要因を、私自身の背景（経歴）から考察

- － 大学・大学院時代の研究と当時の境遇
- － 大学院中退以後から東北大学勤務（現在）まで
- － キーワードは「学際性」「言葉は借り物・道具」

■ 教育からのニーズをITで実現するために（私なりのやり方）

- － おおよその見当をつけて、ひとまず試作品を作って見せる
 - ニーズと具体物の相違から、互いの誤解が見える
 - 解決すべき点が見えてくる → 体系化
- － 技術的には高水準でも、ユーザからの見た目・操作性は低水準に
- － 使い方をまとめて「手引き書」を必ず作る

■ その他「教育」と「IT」に関連した、最近の興味

- － 教育革新・技術革新の普及要因
- － [教育] と [技術] のコーディネート → 人材育成のカリキュラムに反映